

## 福 祉

### 1 学習指導と評価の改善・充実

教科「福祉」は「社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる。」を目標としており、社会福祉に関する知識や技術を断片的に学習させるのではなく、社会福祉施設の見学や実験・実習、調査研究、日常的な実践活動などの実際の・体験的な学習を通して、活用できる知識と技術を総合的に身に付けさせることが求められている。

そのため、各学校においては、生徒に生きる力を育むことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努める必要がある。

現行の学習指導要領においては、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力など「生きる力」を育成することを重視していることから、評価についても、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価を一層重視することが必要であり、そのため、目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価を一層重視するとともに、個人内評価を工夫することが求められている。

### 2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

#### (1) 指導と評価の一体化の一層の充実

現行の学習指導要領は、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育てることを重視している。各教科・科目の指導に当たっては、学習意欲を向上させ、生徒の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められる。

このバランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価においては、観点ごとの評価をバランスよく実施することが必要である。

さらに、学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結び付けることが重要である。その際、学習指導の過程や学習の結果を継続的、総合的に把握することが必要である。

各学校では、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

#### (2) 学習評価を通じた学習指導の在り方の検証と指導の改善・充実

平成26年11月の中央教育審議会諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」においては、「『何を教えるか』という知識の質や量の改善はもちろんの

こと、『どのように学ぶか』という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる『アクティブ・ラーニング』）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要がある。」とされている。

教科「福祉」においては、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と態度を育てることが求められており、学校の教育活動を通して、こうした能力や態度を育てるためには、生徒の能力・適性、興味・関心等を十分に理解し、それに応じた指導方法を工夫する必要がある。

こうした指導方法に関わって、現行の学習指導要領においては、「言語活動」をより一層充実させ、教師が教える場面と生徒に思考・判断・表現させる場面を効果的に設定することとしている。

ここでは、科目「社会福祉基礎」において、「アクティブ・ラーニング」の手法を取り入れたグループ別学習の実践事例を示す。

【事例 1】

科目名	社会福祉基礎
単元名	外国における社会福祉 (3)社会福祉思想の流れと福祉社会への展望
単元の目標	諸外国の社会福祉思想の流れを取り扱い、どのような歴史的経緯を経て社会福祉が成立してきたのか、諸外国の社会福祉思想の歴史と発展について <u>グループ単位での学習活動を通して</u> 理解させる。また、諸外国と日本との状況を対比しつつ、理解させる。

〔配付プリント；ワークシート 1〕

【ヨーロッパの社会福祉  
(スウェーデンや北欧の社会福祉)】

他教科も視野においた学習  
…「現代社会」「世界史」など



ア. 次の表を完成させてみよう！

関わった人物	理念が出てきた背景
その人の出身国、及び関連した国はどこ？  【 <b>関心・意欲・態度</b> 】【 <b>技能</b> 】	出身国… <input type="text"/> 関連国… <input type="text"/>  個人での調査学習 →グループ学習内容共有 →グループディスカッションによる検討  ※上記の国を白地図に色分けしてみよう！

〔配付プリント；ワークシート 2〕

【ヨーロッパの社会福祉（スウェーデンや北欧の社会福祉）】

ア. 次の表を完成させてみよう！

語彙		意味	具体的な物など
ノーマライゼーション	自分		
	グループ		
バリアフリー	自分	個人での意見 →グループ意見集約	
	グループ		
ユニバーサルデザイン	自分		【関心・意欲・態度】
	グループ		

イ. 学校、及びその周辺などで上記の点が活かされていることなどをあげてみよう！

語彙	個人の意見	グループの意見
ノーマライゼーション	個人での意見 →グループ意見集約	
バリアフリー		
ユニバーサルデザイン		【思考・判断・表現】

ウ. 町に出て、上記の点が活かされている場所を確認し、地図に描いてみよう！

体験

【思考・判断・表現】

エ. 町に出て、上記の点を今後生かせるような町を想定して、地図に表してみよう！

グループディスカッション

【関心・意欲・態度】

オ. 全体を通して、考えたこと・気が付いたことなどを含めた感想

- ・車椅子に乗って町中に出てみると、いつも通っている見慣れた風景が全然違って見えた。  
グループディスカッション 【知識・理解】
- ・道路の凸凹が、車椅子ではとてもつらい振動に感じた。
- ・コンビニにある上の段の商品に手が届かなかったので、困っている人を見かけた時には、積極的に声をかけていこうと思った。

↓

スキャナでデータを取り込み活用

〔クラス内発表〕

- ・上記ウ、エで作成した地図を提示し、オも含めてグループ単位で考えたことなどを発表させる。発表後にはグループごとに質疑応答の時間を設け、フロアからの質問には丁寧に回答するよう指導する。

グループで発表した時のポイント	フロアからの質問	フロアへの回答	発表全体を通しての気が付いた点、改善点、感想など
	教える		【関心・意欲・態度】【知識・理解】

### (3) 学習指導要領のねらいに即した効果的な指導の実践事例

教科「福祉」においては、社会福祉関連の職業に従事する者としてサービス利用者の立場に立った安全で確かなサービスの提供などを創造する能力と実践的な態度を育てることが求められている。

そのためには、社会福祉の一員として生活上の問題に関心を持ち、日々の生活の中でどのように社会福祉や社会保障が関連しているかを学ぶとともに、人間としての尊厳の保持やプライバシーの尊重など自立生活を支援する態度を実践的、体験的に養う必要がある。

ここでは、科目「介護福祉基礎」における「高齢者施設見学会」の実践事例を示す。

#### 【事例2】

科目名	介護福祉基礎						
単元名	介護の意義と役割						
単元の目標	(1) 人間としての尊厳を保持するための介護の必要性について理解させる。 (2) 人間の自立について考えさせ、自立のために介護の果たす役割や意義について理解させる。 (3) 国際生活機能分類やリハビリテーションの考え方について理解させる。						
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			
単元の具体的な評価規準	基本的な人権について関心を持ち、日常生活の中に確立していく実践としての介護を創造する態度を身に付けている。	多様で個別的な生活支援や利用者主体の考え方とその具体的な取組について多角的に考察し、表現している。	基本的な人権に関する様々な資料や情報を収集して適切に選択して活用している。	QOLの向上、尊厳ある介護、利用者主体など基礎的な知識を身に付けている。			
次 程	学 習 活 動			評価の観点			
				関	思	技	知
【第一次】 尊厳を支える介護 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護とは何か」「ノーマライゼーション」「利用者主体」</li> <li>・高齢者施設見学会事前指導「高齢者施設へ見学に行くにあたって」</li> <li>・<b>高齢者施設見学会</b></li> <li>・高齢者施設見学会レポート作成</li> </ul>			○		○	
【第二次】 自立に向けた介護 (7時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立支援とICF」「リハビリテーション」「職業倫理」</li> <li>・体験学習「身体拘束体験」</li> <li>・身体拘束体験レポート作成・発表</li> </ul>			○	○		○

【高齢者施設見学会の実施内容】

目的	高齢者施設の現状を知るとともに、個々の利用者のニーズに対応するために、どのようなサービスが提供されているのかを学び、これから福祉を学ぶ1年生に対して、介護を行う上での基本的な考え方について理解させる。
指導上の留意点	<p>事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者施設見学会を通して施設の概要や支援内容、そこで働く専門職、入所されている方の生活について理解を深めることが目的であることを指導する。</li> <li>・ 見学する特別養護老人ホーム、養護老人ホームについて各自で調べさせる。</li> <li>・ グループに分かれて質問内容を整理させる。</li> </ul> <p>知識のインプット</p> <p>知識のアウトプット</p>
	<p>施設訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身だしなみを整えさせる。</li> <li>・ 正しい敬語、態度で見学し、職員の方や利用者の方と関わるように指導する。</li> </ul>
	<p>事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見学会で学んだことや質問内容を踏まえてレポートを作成させる。</li> <li>・ レポートを施設へ提出する。</li> </ul>

生徒の知識の定着を図るため、個別学習指導とグループ学習指導を効果的に行うことにより、知識のインプット・アウトプットを意識的に行う。また、施設見学発表会を全学年合同で行うことにより、生徒の表現力の育成など言語活動の充実を図る。

【施設見学発表会の展開例】

見学会で学んだことを共有する【グループ・ワーク】

高齢者施設見学会 ○Gのまとめ

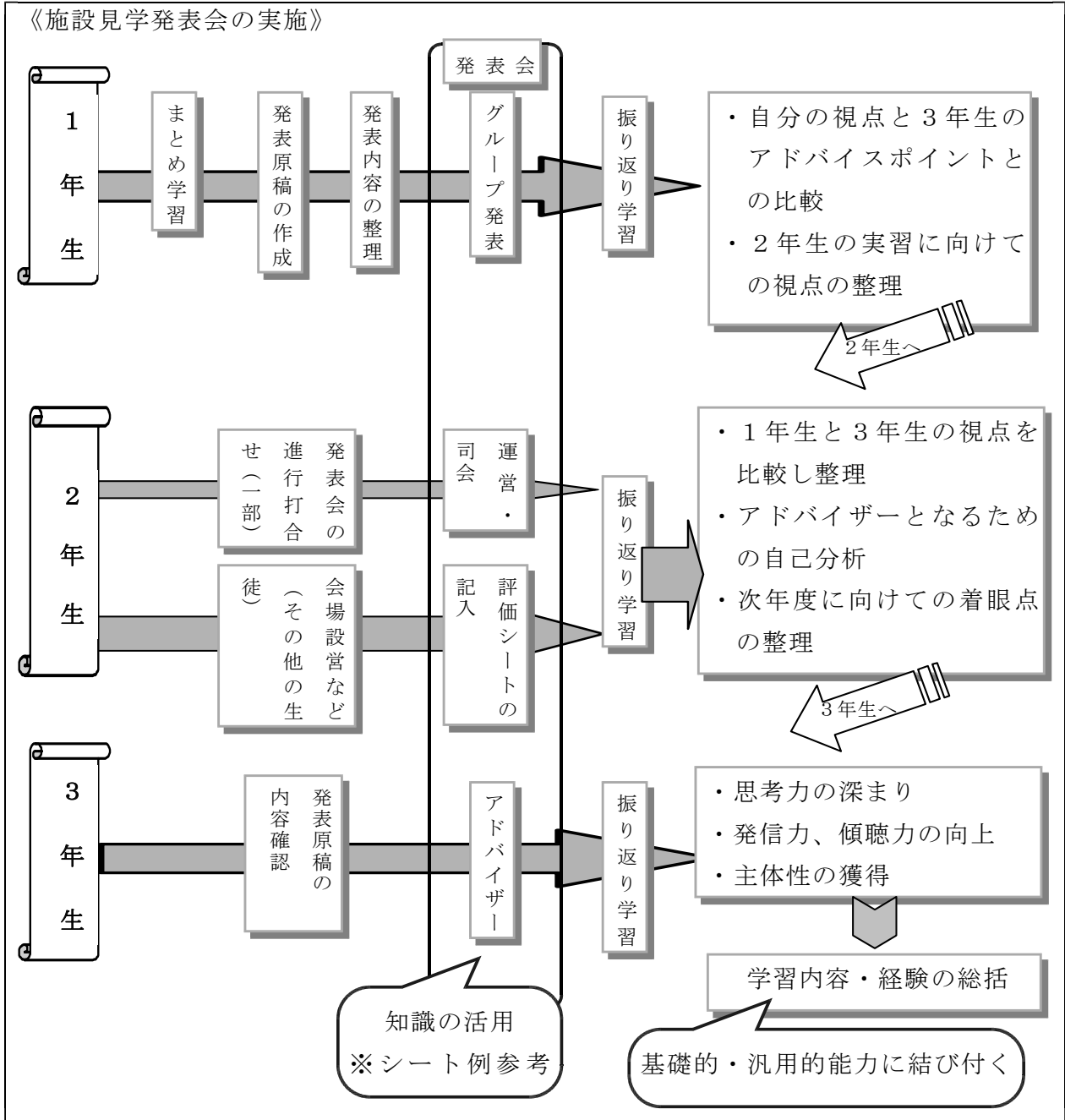
- 1 施設の機能・役割
- 2 施設内の工夫
- 3 利用者の様子
- 4 職員の様子
- 5 よりよい施設・よりよい介護福祉士になるために

他科目との繋がりを持たせる。  
⇒社会福祉基礎、生活支援技術、  
こころとからだの理解

何に着目して様子を観察したか、  
生徒同士、多様な視点を共有できる。

否定的視点を持つことで、問題  
発見力を高める。⇒知識の活用、  
主体的に学習に取り組む態度





【シート参考例】

『3年生 施設見学発表 アドバイザーシート』

1年生のまとめレポートから どのような視点で書かれているか。	自分たちが1年生の時のまとめレポートから どのような視点で書かれているか。 違いはどこか。
<p>アドバイスポイント ※3つ以上書くと加点</p> <p>視点の違いを理解し、必要となる視点について分かりやすく理由も含めて教える。</p>	